

平成22年度(2010 年度)

# 全ての授業・保育で取り組む

## キャリア教育に関する研究

各校園で日々実践している全ての授業・保育の中で、キャリア教育の視点をもって取り組むことは、子どもたち一人ひとりのキャリア発達、つまり生きる力をつけるということにつながる。

今年度は、それぞれの発達段階に応じたキャリア教育の授業開発プログラム（指導案）を作成し、研究授業・保育等で公開し、キャリア教育をどのように進めていけばよいのかを検討し、深めていくことを研究テーマに設定し取り組んだ。

### <研究員>

武本 貴美子	箕面市立とどろみ幼稚園	宮本 智美	箕面市立なか幼稚園
寺内 佐和子	箕面市立かやの幼稚園	村上 恵梨子	箕面市立箕面小学校
山北 智	箕面市立萱野小学校	常塚 史織	箕面市立北小学校
光成 光希子	箕面市立南小学校	駒井 安子	箕面市立西小学校
藤井 陸平	箕面市立東小学校	池田 香澄	箕面市立西南小学校
辻野 夏奈江	箕面市立東小学校	増山 豊子	箕面市立豊川北小学校
北上 友子	箕面市立中小学校	小林 ひとみ	箕面市立豊川南小学校
市川 泰清	箕面市立萱野北小学校	渡部 洋子	箕面市立とどろみの森学園
柴田 由紀子	箕面市立第一中学校	金城 忠	箕面市立第二中学校
炬口 哲男	箕面市立第三中学校	小松 万佑子	箕面市立第四中学校
東稔 治義	箕面市立第五中学校	磯田 秀行	箕面市立第六中学校

### <スーパーバイザー>

三川 俊樹 追手門学院大学 教授

## I 研究テーマの設定について

キャリア教育に対するイメージは、勤労観、労働感、職業観を育てることがキャリア教育の大きな目標であり、それを達成するために職場体験を通して行うキャリア教育が主な位置を占めていると言える。しかし、本キャリア教育研究部会でめざしているのは、日々の授業・保育の中でもキャリア教育の視点を持って取り組むことで、子どもたち一人ひとりのキャリア発達、すなわち生きる力をつけることを主なテーマとして取り組んでいくということである。

本研究では、昨年度に引き続いて授業開発プログラム（指導案）を作成し、研究授業・保育で公開し、各校園で実践したことを交流しあうことでキャリア教育を深めるように研究を進めてきた。

## II 研究実績

5月24日 第1回研究部会「キャリア教育および本研究でめざすキャリア教育の方向性について」

（講師） 三川 俊樹（追手門学院大学 教授）

8月17日 第2回研究部会「1学期におけるキャリア教育の授業実践の報告」

（講師） 三川 俊樹

2学期 各校園で、作成したキャリア教育プログラムの実践

10月12日 第3回研究部会「2学期に実践または実践予定の『キャリア教育のプログラム開発シート（指導案）』の交流・検討」

12月13日 第4回研究部会「箕面市立かやの幼稚園における公開保育・研究会」

テーマ ぽかぽかランド・きずな2010 ～それいけ！カップ大ぼうけん～  
研究協議 「一人ひとりの自己有用感を育成するための取り組みについて」

講演 「全ての授業・保育で取り組むキャリア教育について  
—かやの幼稚園の公開保育や研究協議をうけて—」

（講師） 三川 俊樹

3学期 各校園で、作成したキャリア教育プログラムの実践

2月7日 研究部会「各校からのキャリア教育の授業実践報告と本年度における実践のまとめ」

（講師） 三川 俊樹

3月下旬 研究紀要にまとめ

### Ⅲ 研究内容

- 各校園のキャリア教育プログラム  
別紙参照

### Ⅳ 研究のまとめ

キャリア教育は、特別な教育ではないので、日常のさまざまな教科の指導や活動の中にかにキャリア教育の視点を盛り込むことができるかということが重要である。具体的には、キャリア教育の視点で授業・保育を組み立て、キャリア教育の視点で授業・保育を展開し、キャリア教育の視点で授業・保育の成果を評価するということである。本研究では、絶えず授業・保育でも4領域8能力を意識して実践していただいた。

また、キャリア教育をそれぞれの教科の中だけで考えるのではなく、網の目のようにクロスしているところがあるので、各教科、各活動とのつながりを考えていくことは重要である。

今回、グループ活動が随分取り入れられているが、グループ活動をあらゆる活動の場で活用することは必要である。キャリア教育では、人間関係形成能力、コミュニケーション能力がねらわれているから、グループ活動、グループ学習を絶えずいろんなところで意識するのは重要である。

自らの体験を振り返って、それを気づきにして、言葉で表現するというのもとても大事なポイントである。ただ体験してよかったというのではキャリア教育の視点としてはもの足りない。自らの体験の意識化と言語化、それに気づきと言葉による表現が子どもたちの力に明確に結びついていくのである。確かに、振り返る力は、各教科だけでなくいろいろな場面で、あらゆる活動の中で体験を振り返って、それを意識化して言葉にするというしかけをいろいろなところでしていくと、幼稚園の子どもたちでも意識化とか言語化というのが日常的な習慣の中に入ってくるのでそれがしやすくなるということがある。

一人ひとりの子どもたちの体験をいかにていねいに聞くかということで、シェアリングというのもそうである。キャリア教育では、シェアリングが重要なので、最後の体験の振り返りをきちんとしないとプログラムとしては失敗のようになる。振り返りは、子どもたちも先生も一人ひとりの子どもの体験をていねいに聞き取るというキャリアカウンセリングの視点であるが、それを即座にではなく翌日に持ち越しても有効であるということを学んだ。

異年齢での交流については、振り返りは先生が一人ひとりの子どもの体験を聞くということになっている場合が多いが、低学年の子どもたちに高学年の子どもたちが何かをしてあげたという、その子どもたち自身がどうだったかというのを組み込んでみるというのも一つの振り返りの機会になると思われる。今日やってみてどうだった。異年齢で交流した後、もう一度もとのクラスにもどって、高学年は高学年で、低学年は低学年でそれぞれ体験の振り返りがあるであろう。高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに自分たちがした遊びをどう感じたかというしかけてみるといいのではないかと考える。

1年間のまとめとして、三川教授より幼小中一貫キャリア教育について、次のような提言をいただいた。

# キャリア教育の新たな展開

## —社会的・職業的自立に向けた「基礎的・汎用的能力」の育成—

三川俊樹（追手門学院大学心理学部教授）

### 1 はじめに

学校から社会への「移行システム」が大きく変化し、新規学卒者の就職が極めて厳しい状況にあつて、若者の「仕事離れ」は進み、若年無業者・失業者、フリーターの増加などの問題が指摘され、初等中等教育だけでなく、高等教育機関においてもキャリア教育への取り組みがますます重要になってきた。

初等中等教育における「キャリア教育」は、1999年12月の中央教育審議会の「接続答申」において、初等中等教育と高等教育との接続の改善、学校教育と職業生活との接続の改善も視野に入れ、小学校段階からキャリア教育を実施する必要があるとしたことから始まる。

これを受けて、2004年1月に『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』が刊行された後、初等中等教育における「キャリア教育」がスタートし、「教育基本法の改正」「学校教育法の改正」「学習指導要領の改訂」のほか、小学校段階からのキャリア教育、中学校を中心とした職場体験活動や、普通科高等学校におけるキャリア教育を推進するとして「教育振興基本計画」（2008年7月閣議決定）の後、2008年12月には「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が中教審に諮問され、2年以上に及ぶ審議を経て、2011年1月31日にはその答申が行われた。

一方、高等教育においては、2010年2月に公示された大学・短期大学設置基準の改正により、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」と明記され、2011年4月1日から施行することとなった。すなわち、大学教育の一環として「社会的・職業的自立に関する指導等」が実施されることになり、大学教育の中にもキャリア形成支援を位置づけ、一貫したキャリア教育のシステムを構築することとなった。

### 2 キャリア教育とは何か

キャリアとは、「人生」「生き方」「生きるということ」を意味し、「生涯発達における多様な役割の統合とその連鎖」（D・スーパー）と定義される。

中央教育審議会が2011年1月31日に答申した「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」においては、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、『キャリア』の意味するところ」であり、キャリアは、「子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくもの」であるとしている。

このような「キャリア概念」に基づくキャリア教育は、文部科学省（2004）『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために』では、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成してい

くために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」とされ、キャリア発達を支援するプログラムとして、発達段階に沿った系統性（計画性・継続性）を重視するとともに、キャリア発達を支援する個別対応として、キャリアカウンセリング（適切なコミュニケーション）を重視していた。すなわち、「キャリア発達を支援するためには、個別の指導・援助を適切に行うことが大切であり、特に、中学校、高等学校の段階では、一人一人に対するきめ細かな指導・援助を行うキャリアカウンセリングの充実は極めて重要である」として、キャリア教育においてキャリア発達を支援する個別の指導・援助としてのキャリアカウンセリングの意義が強調されていた。

一方、中央教育審議会が2011年1月31日に答申した「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」においては、キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であるとされた。また、従来のキャリア教育は、「端的に言えば、職業観・労働観を育成する教育」であるとされたこともあったが、本来のキャリア教育は「子どもの全人的成長・発達を促す」という点が非常に重要であり、労働観・職業観の育成という狭い領域にとらわれないことが大切である。

さらに、キャリア教育と職業教育との違いは、育成する力にも相違が見られる。中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011）によれば、キャリア教育が「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」を育成するのに対して、職業教育は、「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、態度や能力」を育成するとされる。そして、その教育活動についても、キャリア教育が「普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施される。職業教育も含まれる」とされているのに対して、職業教育は、「具体の職業に関する教育を通して行われる。この教育は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上でも、極めて有効である」とされている点に違いがあるといえる。

### 3 キャリア形成支援・キャリア教育によって育む力とは

ところで、これまで推進されてきたキャリア教育において、どのような力を育てるかという点について、一定の合意がなかったことも問題の一つであった。

初等中等教育では、キャリア教育とは、「それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力」の発達を支援することを意味しており、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の4能力領域・8能力などと例示されるキャリア発達の支援であり、社会的自立に向けた「生きる力」の育成であるとされてきた。

一方、初等中等教育の「4領域8能力」とは別に、高等教育以降では「社会人基礎力」「就職基礎能力」「生涯を通じた持続的な就業力」などが提案され、用語や概念の混乱が生じていた。

このような中で、中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011）では、社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成をキャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義があるとし、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力を、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れる観点から4つの能力に整理している。それが「基礎的・汎用的能力」としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」である。

①「人間関係形成・社会形成能力」とは、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

②「自己理解・自己管理能力」とは、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

③「課題対応能力」とは、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

④「キャリアプランニング能力」とは、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

このような「基礎的・汎用的能力」を、キャリア教育のカリキュラムやプログラムにも反映させ、「基礎的・汎用的能力」を育成する取組が推進されるとともに、個別のキャリア発達支援としてのキャリアカウンセリングも、このような「基礎的・汎用的能力」の育成を目指して実施されることになるであろう。

#### 4 キャリア教育におけるキャリアカウンセリングの位置づけ

キャリア教育の展開の中では、職場体験やインターンシップ、ボランティア活動などのさまざまな体験活動が実施されるようになってきているが、それを子どもたち一人一人のキャリア発達に結びつけていく個別の指導や援助についてはまだ不十分であり、個人を対象としたキャリア発達の援助としてのキャリアカウンセリングは十分に実施されているとは言えない。

これまでの進路指導においても「進路相談」が組み込まれており、カウンセリングが大切であるという理解はなされてきたが、実際の指導となると進路指導の方に重点が置かれ、キャリアカウンセリングが十分になされているとはいえない状況にあった。キャリア教育は児童・生徒の一人一人のキャリア発達を目指すものであることを踏まえれば、個別のキャリア発達の支援としてのキャリアカウンセリングがますます強調されなければならないであろう。

一方、キャリア教育は、次の5つの機能を必要とする。すなわち、「傾聴」を基礎にした適切な対話による情報収集と理解（コミュニケーション：Communication）、「受容」と「共感」を基礎にした継続的な心理的サポート（カウンセリング：Counseling）、複数の援助者がその役割や責任を認識した上での連携の調整（コーディネーション：Coordination）、関係者同士の共通理解を基礎にした今後の援助のあり方の検討（コンサルテーション：Consultation）、関係者の協力関係を基礎にしたチーム支援による協働（コラボレーション：Collaboration）である。

このうち、カウンセリングは、人がよりよく生きるための援助であり、それによって問題解決や意思決定が図られるが、自己理解、情報収集、計画実行が促されるように「聴く」「受け止める」を積極的に行うコミュニケーションであるといえる。

以上のような観点を踏まえ、キャリア教育が、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であり、「基礎的・汎用的能

力」を育成する教育であるという共通理解に立って、学校における教育活動全体がキャリア発達への支援という視点を明確にもち、個別のキャリア発達支援（キャリアカウンセリング）という観点を意識して展開されるようになれば、より広範な活動がキャリア教育の取組として展開できるようになると思われる。

## 引用文献

- 中央教育審議会 2011 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）  
2011年1月31日
- 文部科学省 2004 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書—児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために—

## IV 最後に

研究員の先生方に見事なプログラムを作成していただき、実践を報告し、交流していただいた。これを先生一人の取り組みで終わることなく、複数の先生の取り組みとして、また学校全体の取り組みとして、さらに中学校区での取り組みとして広げていく必要がある。今後、これをどう広げるか、どのように広げると多くの先生に協力してもらえるかという視点も入れて考えていければと思う。

箕面市の教育の一つの柱としてキャリア教育に取り組んでいくように今後も研究を深めていくことを願う。

1 対象 （4歳児・5歳児 / 2学期）

2 テーマ

ぼかぼかランド2010・絆～それいけかっぱ 大冒険～

3 取組の目標（ねらい）

- ・グループの友だちと協力し、いろいろなコーナーで活動することを楽しむ。  
年長・年少児をリードしながら、自分たちで考えて活動することを楽しむ。
- ・年少・年長児のリードを受け、一緒に考えたり活動したりすることを楽しむ。
- ・シェアリングを通して、自分の気持ちを表現したり、友だちの気持ちを聞いたりしながら共感する気持ちをもつ。

4 取組計画

基 礎	・年長、年少の異年齢のグループ（ぼかぼかぐみのグループ）で、3時間の枠組みの中で相談、工夫をしながらオリエンテーリング形式で活動を組み立てていく。
前	11/24（水） ○いつも子ども達に手紙や声のプレゼントをくれるかっぱたろうから、作品展後のお礼の声が届く。 “楽しい祭りの作品展を見せてもらったお礼に、幼稚園を楽しい場所に変身させる”という内容。 12/1（水） ○「13日にぼかぼかランドがある。」という内容の手紙が届く。 ○ぼかぼかタイム（異年齢交流）→かっぱジャンケンエクササイズを行う。 12/6（月） ○かっぱたろうより、ぼかぼかランド（冒険）の旗とハチマキが届く。 ○ぼかぼかタイム（異年齢交流）→冒険に向けてのグッズ作り。 12/9（木） ○冒険の内容と、年長児には係りの仕事についての手紙が届く。 ○年長児→係りの仕事の話し合い。小学校への下見。 ○年少児・年長児それぞれにぼかぼかランド当日の注意事項の確認をする。
後	・ぼかぼかランド終了後、各ぼかぼかぐみでのシェアリングを行う。 ・年長児は、クラスに戻ってからのクラスでのシェアリングを行う。 ・ぼかぼかランドの翌日に再度ぼかぼかぐみで集まり、昨日の続きのシェアリングを行う。

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
○冒険の説明と確認	○もりのひろばに集まる。 ・かっぱ大冒険についての説明を聞く。 ・オリエンテーリングでの内容と今日の約束を知る。  *約束* ・必ずグループで相談をし協力し合って行動する。 ・トイレに行く時には、勝手に行かずにグループの友だちに伝え、待ってもらおうようにする。	・かっぱからの手紙を確認し冒険に期待がもてるようにする。 ・各コーナーについては、地図などを使用し視覚で理解が出来るようにする。  ・約束を子ども達と確認しておくようにする。	人間関係形成能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力	・冒険の地図 ・冒険の旗 ・冒険のハチマキ ・点呼カード



<p>○オリエンテーリング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係りの仕事は、責任をもって行う。</li> <li>・迷子になった時は、迷子センターに行くようにする。</li> <li>・各コーナーの混雑具合は受付の旗の数で知る。</li> </ul> <p>○オリエンテーリング形式で各コーナーをグループごとにまわる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの部屋</li> <li>・カッパズルの部屋</li> <li>・かっぱジャンケンの部屋</li> <li>・キラキラ変身の部屋（記念撮影）</li> <li>・お話の部屋</li> <li>・小学校への冒険</li> <li>・かっぱ食堂</li> <li>・かっぱをさがせ！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コーナーでの活動終了後時間があれば軽いシェアリングをその場で行うようにする。</li> <li>・グループ内でトラブルが起これば、出来るだけ子どもたち同士で相談をし合い解決が出来るように教師は、近くで見守り、必要があれば支援を行うようにする。</li> <li>・グループで相談をしたり、協力し合っている場面を捉え、その事柄を認めたり、困っている他のグループにスムーズに進めているグループの様子を紹介したりする。</li> <li>・コーナーが空いている時には、まだコーナーを経験していないグループに直接声をかけてすすめるようにする。</li> <li>・かっぱ食堂には、12時30分までに入ることを再度、全員に分かるように放送で知らせるようにする。</li> </ul> <p>・昼食後、まだまわっていないコーナーがあれば、再びまわるように知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シェアリング時の約束を子どもたちと確認する。</li> <li>・グループで協力できたことや、困ったことなど今日の活動がどうだったかを引き出していく。</li> </ul>	<p>人間関係形成能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力</p> <p>人間関係形成能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェアリングの時の約束絵カード3枚</li> <li>・魔法のマイク</li> </ul>
<p>○シェアリング</p>	<p>○もりのひろばに集合する。</p> <p>○各ほかほかくみにてシェアリングをする。</p>			

## 6 展開のポイント（工夫など）

○教師だけでは、各コーナーの子どもたちへの支援が難しい為、保護者にも手伝いをお願いしている。（事前に手伝いの募集をかけ、活動の内容、ねらいなどを伝えておく。どのような手伝いをお願いするかも具体的に分かりやすく伝えておく。）

○各コーナーでの子どもたちの様子を手伝いの保護者に記録してもらい、最後のシェアリングで活用する。

○各コーナーの時間のかかり具合をみながら、シェアリング開始時間などを臨機応変に変更しつつ、全てのコーナーがまわりきれなかったグループには、予約券を発行し、翌日に続きを行うことを伝えた。

○翌日に続きのコーナーをまわると共に、シェアリングももう一度行うようにした。

○降園時にほかほかタイムの様子を伝えたり、月に2回のほかほかタイムの活動の参観を行ったりすることで、異年齢交流の活動に対する保護者理解を深めていった。

## 7 成果と課題

<p>成 果</p>	<p>○年長児と年少児が楽しんで、期待を持って子ども達だけでぽかぽかランドに取り組む姿が見られた。 ○年長児は、自分に与えられた仕事をしっかりと最後までやり遂げる姿が見られた。 ○年少児は、来年のぽかぽかタイムに期待をもっている姿が見られた。 ○翌日に活動の続きと、シェアリングをしたことで子ども達から様々な発言を引き出すことができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○コーナーの数が多く、全員が全てをまわりきれなかった。来年度は、子ども達の姿を予想し活動内容を吟味するようにしていきたい。 ○シェアリングの時間が短くなり、深めることができにくかった。来年度は、事前に当日と翌日に分けて質問内容にも変化をつけるように工夫をしていきたい。</p>

1 対象（ 中学2年生 / 1学期～2学期 ）

2 テーマ

・職業体験

3 取組の目標（ねらい）

- ・働くことの意義や役割に気づく。
- ・自分の生き方や進路の選択に生かせるようになる。
- ・コミュニケーションスキルを身につける。
- ・あいさつ、電話のかけかた、手紙の書き方などを体験する。

4 取組計画

基 礎	1年生 ボランティア体験 2年生 校外学習 【役割把握認識能力】 集団行動や班活動を通して、互いに協力することの大切さを学ぶ。 【コミュニケーション能力】 公共の場での公衆道徳・マナーを身につける。 世界遺産に登録されている史跡・建造物を見学し、文化への関心を深める。
	2年生 職業体験 【職業理解能力】 さまざまな職種の方々から聞き取りを行ったり、職場の見学や体験をさせていただいたりすることにより、将来の展望を描き、生き方を考える力を培う。 【コミュニケーション能力】 職業体験の中で、忍耐、挨拶、言葉遣い、根気、気配り、時間厳守や服装を整えることなどを学ぶ。 【計画実行能力】 計画や準備を可能な限り生徒自ら行うことで、自主性を身に着ける。
後	2年生 進路学習

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
ボランティア体験（1年生）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースに分かれてボランティア体験をする。</li> <li>・班ごとに協力する。</li> <li>・班ごとに報告書を作成する。</li> <li>・ボランティア体験のお礼状を書く。</li> </ul>	クラスの6つの班が、それぞれ別のボランティア体験コースとなるようにする。 個人の希望もあるが、班で協力することの大切さを中心にすえる。	コミュニケーション能力	報告書 お礼状

<p>校外学習 (2年生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに目的地を決め、計画を立てる。</li> <li>・北千里駅から目的地まで電車で向かう。</li> <li>・京都では、英語を使ってインタビューする。</li> <li>・校外学習の内容を壁新聞にまとめる。</li> </ul>	<p>目的地はいくつかにしぼる。 京都の観光案内地図・パンフレットを集めておく。(観光案内所に送ってもらう) チェックポイントで班のメンバーを確認できる体制を作る。 目的地が遠い班から出発できるようにする。 英語科と連携する。 班のメンバーがインタビューを分担する。 インタビュー内容は英語の授業でまとめる。 全員が記事を書けるように、校外学習先でパンフレット等を収集する。</p>	<p>計画実行能力 情報収集探索能力  コミュニケーション能力</p>	<p>計画書  インタビュー用紙 壁新聞</p>
<p>職業体験学習 (2年生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人へインタビューする。</li> <li>・仕事調べをする。</li> <li>・職業体験の依頼の電話をする。</li> <li>・電話のかけかたを学ぶ。 (→事前に連絡が必要な事業所を確認する。)</li> <li>・職業体験先へ正式な依頼 ・挨拶へうかがう。</li> <li>・服装・交通手段の確認をする。</li> <li>・職業体験直前挨拶へうかがう。履歴書を書き、持っていく。</li> <li>・職業体験に行く。 ・体験日誌を書き、活動の記録をとる。</li> </ul>	<p>仕事のしんどいところばかりでなく、充実感が伝わる内容にする。 職業体験で学んで欲しいことも含める。  同じ事業所に何度も依頼の電話をしないよう、報告を徹底させる。  事業所に失礼のないよう、遅刻しそうなとき、緊急のときの対応をすばやくとれる体制を整える。  学校としての正式依頼文書を作る。  履歴書では「職業体験で学びたいこと」を明確に書けるようにする。  「なりたい職業」＝「職業体験先」とならないことが多い。けれどもせっかくの職業体験が少し早いアルバイトにしかならないということにならないようにする。  3日間のうち定休日のある場合は、学校で学習する体制を作る。  3日間で体験したことはできるだけ詳しく書けるようにする。</p>	<p>コミュニケーション能力  情報収集探索能力  コミュニケーション能力  職業理解能力  職業理解能力  職業理解能力</p>	<p>インタビュー用紙  第一次計画書 電話結果報告書  職業体験あいさつ計画書  履歴書  体験日誌  体験報告書 お礼状</p>

進路学習（2年生）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書を書く。</li> <li>・体験のお礼状を書き、事業所へ届ける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の生き方と身近な進路について考える。</li> <li>・3年生での進路選択について知る。</li> </ul>	体験したことを振り返る時間を作る。 仕事・生き方を考え、見つけなおす機会にする。	役割把握・認識能力 職業理解能力 自他の理解能力	
-----------	--	---	--------------------------------	--

#### 6 展開のポイント（工夫など）

- ・ 職業体験先は生徒が自分で見つけて連絡をする。断られることも含めて職業体験であると考えて。しかし、事業所にとっては唐突に生徒から連絡が来ることになってしまう。そのため、あらかじめ例年受け入れてくれている事業所には、1学期のうちに文書で知らせる。
- ・ 事業所と生徒が直接やりとりする。そのため、どのような言葉遣いをすればよいかなどコミュニケーションスキルを学ぶ機会を作る。
- ・ 職業体験先を生徒自ら選べるものの、事業所の種類が限られてしまうことが多い。生徒が思いつく職業は身近なサービス業ばかりである。体験先を迷っている生徒には、さまざまな種類の体験先を提案できるようにしておく。
- ・ 職業体験は実際に働いてみるだけでなく、働く人のいる場へ行くことそのものに意味があると思う。より有意義な時間となるよう職業体験の意義を伝えられるようにする。
- ・ 学習室在籍の生徒にとっても、社会と触れあい体験できる貴重な機会である。いろいろな生き方や職業を知って欲しい。けれども、事業所によっては引き受けてもらえないところもある。生徒が職業体験の段階ですでに限られた職業にしか触れられないというのは残念なので、職員側で十分な準備をしておくようにする。
- ・ ボランティア体験や校外学習は班活動を中心に行うが、職業体験は2人、もしくは1人で行く。一人ひとりが責任を持ち、計画的な行動を取れるようにする。
- ・ 職業体験と自分自身の進路と直接結びつけることは難しい。けれども、職業体験でまなんっだことをできるだけ、自らの進路選択で生かせるようにする。

#### <道徳授業との関連>

2010年度より正進社の道徳教材『道しるべ』を使用。

- 1、ごあいさつのすすめ
- 11、スダチの苗木
- 17、打ち込むための条件
- 25、仕事で学んだこと
- 33、僕たちの出発

7 実践を振り返って

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成果</p>	<p>&lt;生徒の感想より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝遅刻しないように早く行って、開店前にすべて準備を終わらせて、そこから休憩なしで働きっぱなしなので、目には見えないところで、すごくがんばっていたんだなと思いました。毎日お父さんが帰って来て、疲れているのを見て、なんでこんなに疲れるんだろうと思っていましたが、改めて働いてみると、すごく疲れて、お父さんもがんばっていたんだなと思いました。</li> <li>・ 「お客様にどうしたら満足してもらえるか」という思いで、自己満足にならないようにすること。そのため、窓拭きなどもこのことにつながるのががんばる。お客様のことを第一に考えること。などいろいろなことが職業体験で学べた。</li> <li>・ 厳しくてとても大変なことだけれど、ただ大変なことだけでなく、楽しいこともあると教えていただいた。</li> <li>・ 「働く」というのは、自分の生活をするためにお金をかせぐことだと思っていました。実際その理由もありますが、私は自分を成長させることだと思います。人と接することで、コミュニケーションをとりあえる大切なことだと思いました。</li> </ul> <p>生徒の感想を見ると、職業体験で、さまざまな人と出会いうことで、吸収できたものはとても大きかった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題</p>	<p>&lt;事業所の方々からのアンケートより&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指示した仕事をかなりこちらが思っていた以上に早く終わらせていたことに驚きました。体が大きかったので、力仕事もこなしていただきましたが、もう少し声を出して欲しかったです。</li> <li>・ 少し「やらされている感」が見られた。何か目的（目標）があると良かったと思います。</li> <li>・ 中学生といえど、仕事をするにあたっての心構え、態度の見直しを再度ご指導いただけますよう、よろしく願いいたします。</li> </ul> <p>事業所の方々からもやはり「やらされている感」の指摘があった。職業体験の意義について、より生徒に伝わるようにしていく工夫が必要である。</p> <p>職業体験で学んだことが学校生活に生かせるようにするための工夫も、より一層必要である。</p>

【キャリア教育のプログラム開発】

開発者（ とどろみの森学園 渡部洋子 ）

1 対象 （ 中学校2年生 / 2学期 ）

2 テーマ

『空中ブランコ乗りのキキ』  
1 内容を読み取る。  
2 作者に手紙を送る。

3 取組の目標（ねらい）

- 1 主人公や登場人物の心情を読み深め、主人公の生き方について考える。
  - 2 自分たちが読み深めたことや疑問などを、手紙の形で作者に尋ねる。
- 【人間関係形成能力】
- 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。
  - 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。

4 取組計画

基 礎	本文をしっかり読み、自分なりの考えを持つ。
前	内容把握 1 各場面ごとの登場人物の言動より心情を考え、交流する。 2 主人公の生き方について、考えを深め交流する。
後	作者への手紙 1 疑問点や考えていることを手紙の形で伝えるために、ノートに下書きを書く。 2 手紙文の書き方の説明。 3 手紙を書く（清書）

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
本文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○CDで通して聞きながら読む。</li> <li>○指名読みで漢字や語句の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話の流れをつかませる。</li> </ul>	情報収集・探索能力	観察
登場人物の人物像をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各段落ごとに、登場人物の言動をとらえ、人物像を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠をとらえながら深めさせる。</li> </ul>	情報収集・探索能力 自他の理解能力 選択能力	発表
主人公の生き方を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キキが「死」を覚悟してまで四回宙返りをしたのはなぜなのかについて考える。</li> <li>○「白鳥はキキだったのか」について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見の交流を充実させる。</li> <li>○意見の交流を充実させる。</li> </ul>	情報収集・探索能力 自他の理解能力 選択能力  情報収集・探索能力 自他の理解能力 選択能力	発表  発表
自分が作者に伝えたいことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートに下書きをする。</li> </ul>		選択能力 課題解決能力	ノート
手紙の書き方についての説明  手紙の清書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手紙の方についての説明を聞き、気候のあいさつを考える。</li> <li>○丁寧に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候のあいさつは自分らしさを出させる。</li> <li>○心をこめて書かせる。</li> </ul>	コミュニケーション能力	手紙



## 6 展開のポイント（工夫など）

- 本文の内容の読み取りをしっかりと行き、「登場人物の気持ち」や「登場の意味」「主人公の生き方」についての考えをはっきりとしたものにすることが必要である。
- 手紙の書き方についての指導を丁寧に行い、相手に失礼のないようにする。
- 丁寧な字で、心をこめて書くことを大事にする。

## 7 実践をふりかえって

### 【成果】

今回の授業では、生徒一人ひとりの読みが深く、また意見の交流も活発で、登場人物の気持ちや登場の意味、主人公の生き方についてしっかり考えることができた。

また、疑問も自然に生徒の中から出され、話し合った後、自分の考えを「手紙」という形で、相手を明確にして表現することができた。

後日、作者の別役実さんからお返事をいただき、生徒たちは大変感動していた。またその感動を、次はもう少し気をはらない形で手紙に書き、お送りした。

### 【課題】

お返事をいただいたのち、作者の考えについて、生徒間の意見交換を実施すればよかった。

【キャリア教育のプログラム開発】 グループ( ) 開発者(増山 豊子・豊川北小学校 )  
 ( )  
 愛 称【 】 ( )  
 ( )

1 対象 ( 3年生 / 2学期 )

2 テーマ

見直そうわたしたちの暮らし (お店たんけん)

3 取組の目標 (ねらい)

地域の商店での買い物の様子を調べて、地域の人々は品質や価格、環境のことを考えて購入したり、販売の工夫をしたりしていることを理解し、自分もまた考えた消費活動ができるようにするとともに、消費活動を通して広く国内の他地域や外国ともかかわっていることに気づく

買い物調べや商店の見学などで積極的に取材活動に取り組み、調べたことをまとめ、発表することができる。

4 取組計画

基 礎	学校たんけん (1年) 校区めぐり (2年) 郵便局の仕事 (2年) ゆうびんごっこ
前	校区たんけん 地域の施設を知ろう
後	お店たんけん 地域のお店をたんけんしよう お店の人の苦勞や工夫を知ろう

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
図書館見学	図書館の施設や図書館で働く人の苦勞について知る	図書館利用の約束ごとを知らせる。	情報活用能力 職業理解能力	新聞作り
校区たんけん	自分たちの住んでいる地域にある施設について知る。  グループでまとめ、発表する。	施設の成り立ち、由緒、役割について知らせる。  校区地図で位置を確認、絵や図を使って分かりやすくまとめるよう助言する。	情報活用能力  情報活用能力 計画実行能力 役割把握能力 コミュニケーション能力 課題解決能力	校区地図作り
買い物調べ	自分の家の買い物の傾向、買い物の工夫について調べる。  スーパーのチラシを持ち寄りお店の工夫をグループで考える。	どこでどんなものを買っているか、何故その店に行くのか、どうやってその店に行くのかなど家の人にインタビューさせる。  いくつかのチラシを見比べることからそれぞれの店の特徴や集客の工夫を考えさせる。	情報収集能力 コミュニケーション能力  情報活用能力 探索能力 コミュニケーション能力	ノート ワークシート  ノート
スーパーマーケットの見学	スーパーマーケットを見学し、お店の様子、働く人の様子、お店の工夫や努力を知る。	事前に家庭の買い物について行き、スーパーとはどんなところかを知らせる。買い物に行き、スーパーの「なんでかな？」を見つけてこさせ、見学当日に質問させる。  見学ではお店の工夫についてその理由も考えさせる。	情報収集能力・探索能力 計画実行能力 職業理解能力 コミュニケーション能力	ワークシート  ノート 発表 ワークシート
お店たんけん	グループに分かれて地域のお店を訪ねる準備をする。	グループの中で、知りたいこと、インタビューしたいことをまとめる。	意思決定能力 計画実行能力 選択能力 コミュニケーション能力	ワークシート

	<p>実際にお店に出かけ、お店の人にインタビューし、お店の人の工夫を知る。</p> <p>調べたことを発表する。</p>	<p>自分たちの聞きたいこと 知りたいことをはっきり とお店の人に伝えるよう 指導する。 インタビューの仕方を指 導する。</p> <p>グループで分かりやすく 伝えるにはどんな工夫が いるかを考えさせる。</p> <p>他のグループのよいとこ ろを見つける。 自分たちの発表を振り返 る。</p>	<p>コミュニケーション能 力 役割決定能 力 情報収集能 力 職業理解能 力 選択能力 計画実行能 力 役割把握能 力 選択能力 課題解決能 力 コミュニケーション能 力 自他の理解 能力</p>	<p>観察 ワークシ ート ワークシ ート 発表 ワークシ ート</p>
--	--	---	---	--

## 6 展開のポイント（工夫など）

<p>日々の生活を注意深く見つめることから、自分たちの毎日はたくさんの人によって支えられていることがわかるようにする。 見学やインタビューのポイントをしっかりとつかませる。 インタビューの準備を入念にさせる。 情報収集をしっかりとさせる。（メモ・質問等） 得た情報の類別、整理をしていく。 発表の仕方の基礎作りをする。 ふり返りと友達の発表のよいところを見つけさせる。</p>
--

## 7 実践を振り返って

<p>成 果</p>	<p>自分の家の買い物調べをすることにより、家庭の中で生活がどのように営まれているかを知るきっかけとなった。 家族にインタビューしたり、一緒に買い物に出かけたりすることで、家庭の中のコミュニケーションの機会が増えた。（保護者の感想） 学校外の人にインタビューするために、しっかりと準備をし、言葉遣い・態度などを学ぶよい機会となった。 お店の人たちがお客さんに気持ちよく買い物をしてもらうための様々な工夫をしていることを理解し、また自分たちの学習を地域の人たちに支えてもらっていることに気づいた。 発表の仕方として、グループでの相談・フリップを使っての説明など協力しなければ完成できないことを実感した。</p>
<p>課 題</p>	<p>お店の経営者が代わったり、会社の方針が変わったりして、受け入れ先が毎年減る傾向にあるため、新しいお店を開拓していく必要がある。 付き添いをしてくださる保護者の確保が難しい。 グループに分かれてのインタビュー活動のためすべての児童のお店での様子を担任が観察することができない。</p>

1 対象（ 1年生 / 2学期 ）

2 テーマ

ひき算  
計算の方法を考えよう  
(11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法)

3 取組の目標（ねらい）

- ・ 自分の考えをみんなの前で話すことができる力を高める。
- ・ 友だちの意見を最後まで聞き取り、理解する力を高める。
- ・ 問題を読んで進んで解決しようとする。

4 取組計画

基礎	授業の中で、自分の考えを発表する。 友だちの考えをしっかりと聞く場面を多く設定する。
前	本単元前の「たし算」で半具体物（ブロック）を操作する活動を通して、自分の考えを持つことができるようにする。また、それを自分の言葉で表現できるようにする。 友だちの意見を聞き、自分の意見と比べることができるようにする。
後	自分の意見を持ち、伝え合うことで、自分の考えを深めていく学習を進める。

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
1. 本時の課題を確認する。	くり下がりのあるひき算の文章問題を読む。	「のこりは」「つかった」は、ひき算と考えるヒントになることを確認する。	・ 計画実行	
2. 問題の計算のしかたを考える。	立式をする。 既習のひき算とのちがいを考える。	一の位からひけないことをおさえておく。  ブロックを操作して考えさせる。 たし算で学習してきたように10のまとまりに着目させる。	・ 計画実行 ・ 課題解決	ノート 発表
	計算のしかたを考える。	2～3人で	・ 自他の理解 ・ コミュニケーション	発表
	計算のしかたを話し合う。	一斉に		

3. 計算のしかたをまとめる。	出されたやり方の中でわかりやすい方法を考える。	計算のしかたを順をおって唱えるようにさせる。		
4. 練習問題をやる。	ブロックを使って計算する。	一問ずつブロックを操作しながら計算のしかたを確認する。	・ 計画実行	ノート

6 展開のポイント（工夫など）

導入なので、半具体物（ブロック）を操作させることや、計算のしかたを言葉で説明することをし  
っかりさせる。

7 実践を振り返って

成果	日常の授業の中でキャリア教育が実践できるということが理解できた。また、手立てを考えた授業を進めることで、児童の学習活動を充実させることができた。
課題	キャリア教育の力をつけるために、どのような授業を計画すればよいのか、常に目標をもって取り組む必要がある。 キャリア教育の力をつけるために、一人一人の児童の評価を適切に行いながら、日々の授業の中での積み重ねが必要である。



5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
家の仕事を知ろう	家の仕事は誰がしているのかを考える。 ・それぞれの家事を誰がやっているのか、○をつける。	家の中にはたくさんの仕事があることに気づかせる。 多くの仕事を家族の中の1人が担っていることに気づかせる。	情報収集 役割把握	ワークシート
お手伝いをしよう	家の仕事の中から、自分にも出来そうな仕事を選ぶ。 選んだお手伝いを1週間続けてする。	続けられるものを選んでいるか確認する。 宿題チェックで励ましの言葉を添えながら、意欲を高める。	役割把握・認識 能力	宿題（感想）
おうちの人にインタビューしよう	インタビューする相手を決め、インタビューの内容はカードの中から2つ選ぶ。  インタビューをする。 聞いたことをワークシートに書き込む。  インタビューをして思ったことを書く。  発表する家族の似顔絵を描く。	自分が聞いてみたいと思うことを選べばいいことを伝える。  おうちの人を話をしっかり聞いて、ていねいな字で分かりやすくワークシートに書き込むように伝える。  自分と相手を比べてみて、似ているところ、違うところ、初めて知ったことなどを書かせる。  画用紙の大きさに合わせてできるだけ大きく描くように伝える。	選択能力  コミュニケーション能力 情報収集能力	ワークシート  調べたワークシート  ワークシート  似顔絵
家族を紹介しよう	聞いてきた内容を写して、発表原稿を作る。  発表の練習をする。  発表会をする。	発表する時に、インタビューした質問と答えがつながるように言葉を補う必要があることを指導する。  発表の仕方を指導する。 ・初め・終わりの礼 ・教室の後ろまで届く声 ・ゆっくり読み上げる など リハーサルを行う  聞き方あいうえおを振り返らせ、聞き方の指導も行う。	計画実行能力  課題適応能力  コミュニケーション能力 自他の理解能力	調べたメモ 発表原稿  発表



## 6 展開のポイント（工夫など）

子どもたちの活動を中心に、聞いたり書いたりする力をつける。  
発表の仕方・聞き方を定着させる。  
他者のことを知り、自分のことと比べて考えさせる。

## 7 実践を振り返って

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分のことを伝えたり、発表したりすることには慣れてきていたが、相手から聞いたことを発表する活動は初めての活動であった。中でもしっかりとインタビューをすることができていた。</li><li>・家族の1年生の頃のことを聞いて、自分と同じところ、違うところを見つけて感想が書けていた。</li><li>・家の仕事を知り、お手伝いをする中で、自分が家族の一員であることに気づくことができた。</li><li>・自分にもできることを見つけて実践してみようとする姿勢が見られた。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・家族の大切さや、自分が家族の一員であることを道徳の時間などでもう少し考えさせてから取り組んでもよかったのかもしれない。</li><li>・家の仕事にはどんなものがあるのか、こちらが提示するのではなく、子どもたちに自分の家の仕事を調査してもらい、それを共有する取り組みを行うと、もう少し身近に感じることもできたのかもしれない。</li></ul>

【キャリア教育のプログラム開発】 グループ ( ) 開発者 萱野東小学校  
 ( 辻野 夏奈江 )  
 ( )  
 愛 称 【 】 ( )

1 対象 ( 4年生 / 2学期 )

2 テーマ

「あらしの夜に」の続きを考えて ヒット作品を作ろう

3 取組の目標 (ねらい)

- この物語のおもしろさにつながっている「作者の工夫」の中から、自分たちの表現に活かしたいものを考えて、物語の続きを創作する。
- 友だちの作品を読むことによって、友だちの作品のよさを認め合う。

4 取組計画

基 礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが作った詩を読み合うことで、互いのよさを認め合う。(1学期)</li> <li>○図工の作品の鑑賞会をもち、互いのよさを認め合う。(1学期)</li> <li>○「夏のわすれもの」の物語文を話の盛り上がりにあわせて、一本の線で表すことをグループで行う。(1学期) 国語科</li> <li>○発表の仕方(話形)を掲示して練習する。(1・2学期)</li> <li>○「生活のくふう」について調べたことをグループごとに台本を作り、練習をして発表する。(2学期)</li> </ul>
前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あらしの夜に」の物語を「はらはらドキドキ度」の一本線で表すことをグループで行う。</li> <li>○どうして、この様な一本の線で表したか、理由を明らかにして発表する。</li> </ul>
後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとに一点、ノミネート作品を選び、その中からクラスの優秀作品を三点決めることによって、作品の工夫を明かにするとともに、自他の理解能力、コミュニケーション能力、選択能力を高める。</li> </ul>

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
1、前時までの学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作者の工夫」として気づいたものを発表する。</li> </ul>	○クラスで作った一本の線を提示し、「作者の工夫」を想起しやすいようにする。	コミュニケーション能力	発表
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光と音をうまく使っている。</li> <li>・構造の工夫（緊張と安心のくり返し）がおもしろい。</li> <li>・会話文が多い。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・三人称で書かれている。</li> </ul> </li> <li>・偶然（鼻かぜ・雷・稲妻）を作っている。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情景を入れている。</li> </ul> </li> <li>・ト書き風の地の文                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の話題</li> </ul> </li> <li>・共通の弱点（雷の音）</li> </ul> </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>「あらしの夜に」の続きを考えてヒット作品を作ろう。</p> </div>				
2、一斉読みをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あらしの夜に」の六場面を一斉読みし、2ひきが会う日時、場所などを確認する。</li> <li>・日時…あしたのお昼 明るい、正体がばれる</li> <li>・場所…この小屋の前</li> <li>・その他…合い言葉を言う</li> </ul>	○書いてある内容を確認し、続きをイメージしながら読むように助言する。 (明るいということは、正体がばれる等)	情報収集・探索能力	観察 発表
3、「あらしの夜に」の続きの「あるはれたひに」を読む	「あるはれたひに」の始めの一部分を読み、2ひきの出会いの瞬間を考え、関係をつかむ。		情報収集・探索能力	発表
4、活かしたい「作者の工夫を考える	・物語の続きにいかしたい「作者の工夫」を理由もつけて考える	会話文 情景 合い言葉	自他の理解能力	発表
5、構想メモを作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作者の工夫」をどのように自分の表現に活かすか考え、構成メモを書く。</li> <li>・2ひきが出会った時の情景</li> <li>・合い言葉を使う場面</li> <li>・2ひきが出会った時の会話と心情</li> <li>・2ひきそれぞれの性格</li> </ul>	○2ひきが出会った瞬間の違和感・緊張感を書き表せるよう、メモを書かせる。 ○「作者の工夫」を活かして、会話文を多くする。 ○書きづらい児童のために構成メモを発表させる。	計画実行能力  自他の理解能力	ワークシート
6、物語を作る	・構想メモをもとに、ヒットするような物語を作る。	○物語の始めと終わりを決めておく。 始め…あくる日のお昼、2ひきは小屋の前で出会った。 終わり…「いっしょに岩山のてっぺんでおべんとうを食べましようね。」	課題解決能力 自他の理解能力 コミュニケーション能力	ワークシート 観察 発表
7、次時の予告	・次時の見通しを持つ	○班ごとにノミネート作品を選び、クラスの優秀作品を選ぶことを知らせる	認識能力	

6 展開のポイント（工夫など）

- ・国語科の読解力を高める取り組みとして考えたものに、キャリア教育の視点も取り入れてみようと再考したものである。
- ・発表の仕方を掲示し、みんなで声にだして練習することによって、クラスの前で自分の考えの伝え方を学ぶ良い機会になっている。
- ・一時間の授業の中で、個人で考える→ペアかグループで考える→クラスで考える を入れるようにして、その場に応じたコミュニケーションの取り方を学べるようにしている。

7 実践を振り返って

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をつけて自分の考えを言えるようになり、説得力のある発言ができる児童が出てきた。</li> <li>・友だちの発表を基に考えさせたり、振り返らせたり、友だちの作品のよさを見つけたりすることによって、友だちの良さを見つけるなど、自他の理解能力が高まったように思う。</li> <li>・文章を読むときは、キーワードや重要な文に線をひきながら、情報読みを心がけるようになってきた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業以外の生活の場面でも、これらの能力を生かして行ってほしいが、どのような支援をすれば日常場面でも生かしていけるのか。</li> <li>・一人では、計画実行能力が育ちにくい児童もいるため、途中までいっしょにしたり、友だちのを参考にさせたり、二人組みやグループ活動を取り入れたりして行うようにした。</li> </ul>

【キャリア教育のプログラム開発】 グループ ( ) 開発者 ( 池田 香澄 )  
 愛 称 [ ] ( )  
 ( )

1 対象 ( 学習室 / 3学期 )

2 テーマ

クリスマス会

3 取組の目標 (ねらい)

劇の練習を通して各学年の交流を図る。  
 自分の意志を持ちながら、譲り合う心を持つ。

4 取組計画

基 礎	本の読み聞かせ いろいろな動物の特徴を知る。
前	『とりかえっこ』を読み聞かせし、絵本の内容を知る。 異学年の学習室の仲間を知る。
後	異学年の交流を生かした活動をする。

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
1、絵本の内容を知る	『とりかえっこ』の絵本を聞いて、お話の内容をつかむ。	動物の鳴き声に気をつけながら、読み聞かせをする。	情報活用能力	お面作成 練習態度
2、役作り	どの動物になりたいか考える。またその役ではどんな鳴き声をするのか。	鳴き声の確認をする。役が重なったときは、じゃんけんをする。	意思決定能力	
3、お面作り	自分の役動物のお面を描き、頭にはめられるようにしてホッチキスで止める。	絵が描きにくい児童には絵本を見せて、参考にさせる。	情報活用能力	
4、劇の練習	自分の鳴き声を確認して劇の練習をする。	せりふを書いた紙を準備し、前で見せながらせりふを言う練習をする。	人間関係形成能力	

5、劇本番	なるべくせりふを見ることなく話す。  前にいる人の方を向いて話す。	気持ちのこもったせりふを言うように助言する。	人間関係形成能力	発表
-------	---	------------------------	----------	----

6 展開のポイント（工夫など）

学習室のメンバーでの劇のため長いせりふのあるものはむずかしい。『とりかえっこ』は鳴き声がせりふになっており、理解しやすかった。紙にせりふを書き出して出すことにより、安心感を持って取り組めた。3学期には5年生が中心となって"6年生を送る会"にて劇をしたい。今度は1年生も劇に参加するのでさらに異学年の交流を深めたい。

7 実践を振り返って

成果	劇の練習をしながら、上級生と下級生のつながりをもっていった。劇の練習をすることによって、上級生は下級生への思いやりを育てながら、下級生は上級生になれば自分もあんなふうにはやらないといけないんだなあという責任感をもたすことができた。
課題	障がいのある子どもたちなので、上級生と下級生のつながりがなかなか分かりにくかったり、言葉が足らずにけんかになったりということが多々あった。

1 対象 ( 2 年生 / 2 学期 )

2 テーマ

おもちゃまつりへようこそ

3 取組の目標 (ねらい)

グループで作るおもちゃを決める。

- ・友だちの説明をしっかりと聞く。
- ・設計図・作ったおもちゃを見せながら、発表ができる。
- ・①お客さんに楽しんでもらえるおもちゃ ②短い時間で作れるおもちゃ ③材料が集めやすいおもちゃ の3つを大切に、決めていく。

4 取組計画

基礎	作りたいおもちゃを本を見ながら、一人2～3枚設計図を書く。 ・形や色、材料などを設計図に書き写す。
前	一人一つおもちゃを作る。 ・設計図の中から ①お客さんが楽しめる ②短い時間で作れる ③材料が簡単に集められる を考えながら一つ決め、実際に自分で作る。 ・おもちゃで遊ぶ
後	1年生を招待しておもちゃまつりをする。

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
グループの中で作ったおもちゃの、遊び方や材料などをグループで発表する。	国語科「おもちゃまつりへようこそ」を元に、おもちゃを見せながら順序よく班のメンバーに説明をする。	実際におもちゃであそんでもらいながら、よりわかるように説明を工夫するなどの声かけをする。	コミュニケーション能力 情報活用能力	発表（観察）
おもちゃまつりの時、お店で出すおもちゃを決める。	決めるときの条件を忘れず班で相談をして決める。 ①1年生が楽しめるおもちゃ ②短い時間で作れるおもちゃ ③材料が簡単に集められるおもちゃ	・一人の意見だけで決めないようにする。 ・じゃんけんなどで決めない。 ・3つの条件にあったおもちゃかどうか。 など、常に声かけをする。	人間関係形成能力 意思決定能力 コミュニケーション能力 選択能力	
決まったおもちゃを理由も含めて各班ごとに発表する。	決まったおもちゃの名前と遊び方、なぜそのおもちゃに決めたのかを発表する。	3つの条件に合っているか、発表ごとに確認をする。 準備物はどうするのか確認する。	選択能力 意思決定能力	発表（観察）
次時からおもちゃまつりの準備をすることを伝える。	準備物の分担を決め、何個必要かグループで計画を立てる。	一人の子どもに準備するものが多くならないように、声かけをする。	選択能力 コミュニケーション能力	



6 展開のポイント（工夫など）

<ul style="list-style-type: none"><li>・一人の意見だけで決めてしまうことなく、グループの話し合いで決めていく。</li><li>・3つの条件に合うおもちゃか、常に意識させる。</li></ul>
--

7 実践を振り返って

成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちが、国語科「おもちゃまつりへようこそ」の単元をもとに、順序よく説明できた。</li><li>・おもちゃを決めるときも、一人の意見で決めてしまう事なく、本当に1年生が楽しめるおもちゃかを考えて話し合っていた。</li><li>・選ばれなかった子どものおもちゃも教室展示し、みんなで共有し遊ぶことができた。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケートをとり、事前に同じ準備物の本の中から4～5人ずつグループを作ってもよかった。</li></ul>

【キャリア教育のプログラム開発】

グループ ( ) 開発者 ( 駒井安子 )  
( )  
愛称 [ ] ( )  
( )

1 対象 ( 5 年生 / 2学期 )

2 テーマ

合同な図形 (算数)

3 取組の目標 (ねらい)

平行垂直という直線の位置関係等友だちと協力して自分たちで見つける。  
興味を持って性質を見つけたり、作図できるようにする。

4 取組計画

平行垂直という直線の位置関係について学習し、それを生かして四角形について台形、平行四辺形、ひし形の定着、性質を身につけた。  
友だち、グループで自分の考えを伝え合ったり、友だちの意見をしっかり聞くことを大切にす  
礎 めてきた。

合同な図形を身につける方法  
直接比較、間接比較、測定とすすめていく中で直接、間接比較の操作の経験をしっかりさせた上  
前 で測定へとつなげていきたい。

図形の角  
6年の拡大図と縮図へとつなげていく。  
後

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
1、本時の課題確認	提示した三角形、四角形と大きさも形も同じ図形をみつけよう 自分の考えをノートにかく	はじめは直感で見付させる その根拠を考えさせることで、図形を構成する要素(頂点、辺、角)に着目させていく	課題解決能力	ノート
2、となりと意見交換する	意見交流をする		コミュニケーション能力	観察
3、班の中で交流し合い、班の意見をまとめる。	意見交流をする			
4、全体で交流し合う	説明の相互評価をし合う	友だちの意見をノートをとりながら聞かせる。	情報収集能力	発表
5、具体的活動	形も大きさも同じ図形を見つける方法を考えよう			
直接比較 間接比較	全体で意見交流したことを元に 図を切り取って重ねたり他の紙に写しとり他の図形に重ねて調べたり辺の長さや角の大きさを測って調べる。	合同な図形を見つける方法として直接比較、間接比較、測定があるができるだけどの方法でも経験できるように子どもから出た意見をもみんなで検証し合う時間を保障する。	情報活用能力	観察
測定				発表
6、振り返り学習感想をかく			課題解決能力	ノート

6 展開のポイント（工夫など）

友だちの意見を自分の意見と比べながら聞き、聞いたことをノートにまとめることで整理していく力をしていく力をつける。  
友だちの意見のよさを認めたり、自分の考えを知ってもらう機会を保障する。

7 実践を振り返って

成 果	学習後自分の学習を振り返って書くことにより、算数の学習に対する関心、意欲が向上した。自分で解決していくことの楽しみ、達成感を感じられるようになった。 学び合いの楽しさを共有できるようになった。
課 題	残念ながら成果に挙げているのは全ての子どもたちではない。まだ達成感を味わいきれていない子どもたちも、自分で見通しを立て自力解決をすることと、話し合いに積極的に参加できるように支援していきたいと考えている。

1 対象 （ 2 年生 / 2 学期 ）

2 テーマ

おもちゃまつりを開こう

取組の目標（ねらい）

- ・ 工作の本からおもちゃを見つけ、作ることができる。
- ・ 1年生に喜んでもらえるおもちゃまつりを計画、運営する。
- ・ 友だちと協力して楽しく活動する。

4 取組計画

基礎	1年生	むかしあそびをしよう（コマまわし、あやとり、たこあげ）
	2年生	1学期 1年生との学校探検 町たんけん
前		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の紹介するおもちゃを作り、交流しておもちゃ作りのおもしろさに気づく。</li> <li>・ 授業の中で話し合いの時間を設定し、意見をいったり聞きあったりして考えを交流する体験をさせる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃまつりの活動についての感想文を書き、感想を読み合う。</li> <li>・ 1年生からのお礼の手紙を読む。</li> </ul>
後		

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導・援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
作りたいおもちゃを決める	工作の本の中から作りたいおもちゃを選び、設計図を描く。	2年生が作りやすいおもちゃの本を数冊選び、グループで手にとれるようにする。 材料が手近にあるもの、1年生と楽しめるものなどの条件を提示する。	情報活用能力 課題解決能力	ワークシート
作りたいおもちゃを作る	同じおもちゃを作るグループに分かれ、相談して作る。試作のおもちゃで遊び、楽しむ。	集まりにくい材料の準備や材料あつめの声かけをする。	人間関係能力 課題解決能力	観察
1年生に紹介するおもちゃを決める	試作のおもちゃを紹介し、楽しいところを発表する。	グループで紹介する場所をアドバイスする。 協力して活動できるよう援助する。	選択能力 人間関係形成能力	観察

1年生のためのおもちゃの製作をする。	1年生が楽しくあそべるよにある程度の数を作る。 1年生に作ってもらう所を考える。	1年生が作れそうなところをアドバイスする。 協力して活動できるように援助する。	計画実行能力	おもちゃ
おもちゃまつりの店の準備をする。	看板を描く おもちゃの紹介役を決め、練習する。	看板の描き方をアドバイスする。 紹介のやり方やスピーチで気をつけることをアドバイスする。	計画実行能力 選択能力	観察
おもちゃまつりをする	おもちゃの紹介をする。 1年生とのおもちゃ作りを楽しむ。	1年生への接し方を考えさせる。 協力して活動できているか援助する。	コミュニケーション能力	

#### 6 展開のポイント（工夫など）

<ul style="list-style-type: none"> <li>作ったおもちゃを交流し、おもちゃ作りのおもしろさに気づいたり、手作りおもちゃで遊ぶ経験をひろげる。</li> <li>1年生におもちゃまつりを楽しんでもらうための準備について考え、相手の立場に立つ経験をさせる。</li> <li>1年生に感謝されたり、一緒に楽しく遊ぶ場を持って、人と関わる喜びを感じさせる。</li> <li>問題解決のスキルを身につけさせる（情報活用、発表など）</li> </ul>
---

#### 7 実践をふりかえって

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んで作ったおもちゃがうまく動かなかった時、友だちの工夫を見たり自分も試して克服するという経験から、おもちゃ作りのコツやおもしろさに気づけた場面があった。</li> <li>1年生に感謝されたり、一緒に楽しく遊ぶ経験ができ、1年生との人間関係が深まった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの考えたことや試したことを聞いて、自分なりに考えなおしたりまとめたりする機会をいろいろな場面で作っていきたい。</li> <li>今後も他学年との交流を計画し、一緒に楽しみあう場を持ち、コミュニケーション力の伸長をはかったり、グループで計画をたてる機会を作りたい。</li> </ul>

【キャリア教育のプログラム開発】

グループ( )

開発者( 磯田 秀行 )

愛 称 ( )

箕面市立第六中学校

1 対象 ( 1年生 / 2学期 )

2 テーマ

「ハンバーガーショップの経営者になってみよう！」

3 取組の目標(ねらい)

- ・身近なことから、生活と経済の結びつきについて考える。
- ・普段からニュース調べを家庭学習の課題にしており、3年時の公民分野で学習する経済への関心が高まりつつある。そこで、本時の授業をきっかけに、ニュースを見る視点や視野を広げるため、あえて3年時で学習するこの単元を通して、意欲を高めるきっかけ作りを行う。
- ・グループワークを通じて、様々な考え方があることを理解し、限られた時間のなか、グループとして、1つの意見に集約させる。

4 取組計画

基礎	・普段から家庭学習の課題にあげているニュース調べ
前	・日常生活における班活動
後	・その後のニュース調べはただ見るだけではなく、中身についても理解が深まるように目線を変えさせる ・時事問題への関心を高め、普段の生活と密接に結びついていることを理解させる

5 取組の展開

活動内容	児童・生徒の活動	教師の指導 援助の留意点	キャリア能力	評価の資料
<p>&lt;導入&gt;5分 校区周辺の地図を配布</p> <p>ワークシートを配布</p>	<p>六中や自分の家がどこにあるかを確認</p> <p>本時の学習課題の説明を聞く</p>	<p>最新の地図ではないことを説明する</p> <p>質問は受け付けるが、あまり深入りはしない</p>	<p>情報活用能力</p>	<p>観察</p>
<p>&lt;展開①&gt;10分 まずは1人で考える</p> <p>&lt;展開②&gt;20分 自分の選んだ場所と理由を班で協議し、班で一か所に絞り込む</p> <p>&lt;展開③&gt;10分 班の代表者が、出店場所と理由を説明する</p>	<p>地図を見て、自分がハンバーガー店を出店するならどこにするか印をつけ、ワークシートに自分の考えをまとめる</p> <p>6人の班になり、ワークシートに記入</p> <p>班の中で全員の意見を交流する</p> <p>ワークシートに各班の意見を記入させる</p>	<p>友人と相談するのではなく、1人で考えさせる</p> <p>アイデアが出ない生徒にし、助言を行う</p> <p>班長を中心に活発な議論を展開させる</p> <p>制限時間を守らせる</p> <p>結論は一つではなく、多様な考えや意見があることに気付かせる</p>	<p>意思決定能力</p> <p>人間関係形成能力</p> <p>情報活用能力</p> <p>情報活用能力</p>	<p>ワークシート</p> <p>観察</p> <p>発言</p> <p>発表</p>
<p>&lt;まとめ&gt;5分 本字のまとめ</p>	<p>教師によるまとめの話を聞き、自己評価を行う</p>	<p>飲食店が利益を上げるための仕組みを理解させる</p> <p>ニュースや新聞を見る視点を広げるためのきっかけを与えさせたい</p>	<p>将来設計能力</p>	<p>ワークシート</p> <p>アンケート</p>



6 展開のポイント(工夫など)

- ・グループワークにおいて、自分の考えをもとに積極的に話し合いに参加しているか。
- ・経済活動への興味・関心を持ち、意欲的に今後の学習に取り組めるか。
- ・今後、新聞やニュースを読み解くためのきっかけ作りができるかどうか。

7 実践を振り返って

成 果	<p>&lt;アンケート調査による生徒の意見より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の見通しの甘さを思い知った。</li> <li>・今まで飲食店の出店地のことなどは考えたことがなく、新鮮だった。</li> <li>・飲食店の売上高に対する利益率が低くてビックリした。</li> <li>・お店の大変さが分かった。</li> <li>・ニュースを見る観点が変わりそう。</li> <li>・他人の様々な意見を聞くことができ、違う考えもあることに気付いた。</li> </ul> <p>→全体的に前向きな意見が多く、授業自体は成功であったように思う。</p>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの20分という時間が長すぎた。</li> <li>・グループワークで全員が関わらず、一つのまとまり、結論を出すのが苦手なように感じた。</li> </ul>